

令和6年3月1日

越谷保育専門学校  
校長 美入 昌男

## 令和5年度 学校関係者評価委員会報告書の公表について

学校関係者評価委員会による、本校の「令和5年度学校関係者評価委員会報告書」を公表します。

なお、本校の学校関係者評価で使用した自己評価報告書の様式は、特定非営利活動法人私立専門学校等評価研究機構が作成した文部科学省ガイドライン準拠版 Ver4.0 を使用しました。

令和6年3月1日

越谷保育専門学校  
校長 美入昌男様

越谷保育専門学校  
学校関係者評価委員会  
委員長 曾野 麻紀

## 令和5年度 第2回学校関係者評価委員会報告

令和5年度第2回学校関係者評価委員会において実施した「令和4年度自己評価報告書」に対する評価結果について、下記のとおり報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員会委員名簿

委員長：曾野麻紀委員

##### (1)外部委員

池田 祥子	社会福祉法人杉の子保育会 評議員
石田 隆博	学校法人石田学園理事長 認定こども園わせだ園長（当日欠席）
植竹 清文	学校法人植竹学園 理事長
岡 美那子	社会福祉法人 まあれ愛恵会 さいたまたいよう保育園長
曾野 麻紀	十文字学園女子大学 教育人文学部幼児教育学科 准教授
豊田 正一	元埼玉県吉川市立中央中学校長、吉川市教育委員会スクールソーシャルワーカー
中山 望	埼玉県立越谷東高等学校

（五十音順）

##### (2)学校側事務局

美入 昌男	学校法人ワタナベ学園理事長兼越谷保育専門学校長
渋谷るり子	越谷保育専門学校教務部学科長
古塩 秀明	同 事務長
会田 秀樹	同 参与
東海林 孝	同 教務部学科主任
片村 優美	同 専任教員

## 2 委員会開催状況

- (1) 日 時 令和5年11月27日(月) 午前9時20分～午前11時30分
- (2) 会 場 越谷保育専門学校 201 教室
- (3) 参加委員 上記委員 出席6名 欠席1名  
学校側事務局 6名

## 3 委員会次第

開会

- (1) 校長挨拶
- (2) 授業見学
- (3) 議長選出
- (4) 協議

ア 今年度の学生募集の状況について

イ 中途退学防止の取り組みについて

ウ 今年度の進路状況の中間報告

エ 合理的配慮が必要な学生への対応の取り組みについて

オ その他

- (5) その他

ア 今後の予定

イ 事務連絡等

閉会

## 4 学校関係者評価結果

別紙のとおり

令和5年度越谷保育専門学校 第2回学校関係者評価報告書

令和6年3月1日

- 1 校長挨拶
- 2 授業見学

科目	(教室)	(授業担当者)
子どもの言語文化表現	(4階 401 教室 1A)	横関由紀
保育内容環境	(2階 204 教室 1B)	織壁佐和子

校長より学校の近況について

本校の学校行事は、入学式、おもちゃ美術館、スポーツ大会、保護者会などがおこなわれました。地域活動への参加ということで、周辺の地域清掃活動がありました。来月はオペレッタの発表会が予定されています。

保育祭は3年ぶりに一般公開を行い、同窓会総会と同時に開催したため339名の来客がありました。

1月19日は十文字学園女子大学にご来校いただき、指導委員会が予定されています。2年次研修が2月6日でディズニーシーの見学となっています。

2月は1年生の保育実習、3月は1年生の施設実習です。3月13日は第54回の卒業証書授与式が越谷市中央公民館で行われます。

- 3 議長選出

美入校長より曾野委員長に議長をお願いすることとなった。

- 4 協議事項

- (1) 今年度の学生募集の状況について

(学校) 今年はかなり学生募集に苦戦をしている状況です。今年度は委託訓練生の募集も行います。募集は12月から始まる予定です。どれだけ昨年度の64名に近づけるかというのが今後の課題だと思います。

(学校) 高校も大学も同じかと思いますが、出生率の低下による高校生の減少が、大変厳しいです。出生率が80万人を切って70万人台となり、保育

園幼稚園においても影響を受けます。大学、専門学校においても徐々に影響を受けてくると考えています。

また、委託学生の募集が年々減ってきています。令和2年では15名いましたが、今年は8名です。多いときだととても多く、20～30名ほどのときもありました。

(学校) オープンキャンパスや個別相談会などの入学前イベントを含め、全体の来校者が減少しています。個別相談会では手応えのあった生徒も何人かいたが応募では見込みよりもかなり減ったことが残念でした。

定員の8割が目標で募集してきたが、今年はそのあたりが難しくなっており、訓練生次第のところだと感じています。

(委員長) 学生募集状況が厳しいということですが、先生方から何かご質問ご意見等ございましたらお願いします。

(学校) 出生率低下の影響が大きい。80万人を切って70万人台になっている。保育園幼稚園もこの影響があり厳しく、徐々に大学や専門学校も影響を受けてくると考えています。

さらに、マスコミの影響もあると考えています。園バスの置き去りや虐待報道などにより、マイナスなイメージがあるのかもしれないと推察しています。

立地条件としては、駅から遠いこと、加えて校舎が古くなってきていることも印象に影響をしていると考えています。

強みは歴史が55年あること、卒業生が9815人と多くの方が活躍されていること。幼稚園教諭と保育士が同時にとれることも大きな魅力です。

また、教員の面倒見の良さは自信を持てます。見えない部分をもう少しPRしていきたい。

(委員) 大学では、保育、幼児教育が不人気であることに加え、女子大であることが不人気に繋がっている。また、従来であれば入学ができなかったであろうレベルの高い大学が指定校を出すような状況です。高校生の意識はどうでしょうか。

(委員) 高校入学時に卒業後の進路がはっきりと決まっている受験生もいますが、入学後に決定していく生徒の方が多いと感じています。1年生のときから、体系的なキャリア教育や職業を知ることからはじめ、その夢を叶えるためにはどういった学びが必要なのか、学べる場所はどこなのかを学べるように高校3年間を通して進めています。

(委員) 少子化の影響が保育園や幼稚園にかなり影響が出てくると思います。学生が減ると同時に、それ以上に我々も危機感を感じながら、来年再来年は募集方法をガラッと変えないといけないと危機感を感じます。

(委員) 家庭にいた主婦の方や、仕事を辞めて探している状況の方が学生として入学するというのは可能でしょうか。常識問題や作文などを入試課題とした、社会人枠を設けることを提案したいです。

(学校) ありがとうございます。社会人入試も考えていきたいと思っています。

## (2) 中途退学防止の取り組みについて

(学校) 表は1年次に退学をしたのか、2年次に退学をしたのかの内訳をそれぞれ入力しています。令和5年度では1年次で1名、2年次では4名となっています。

退学要因の背景を考えると、実習でのつまずきや、規則正しい学校生活を送ることが難しい、進路選択のミスマッチなどが挙げられます。

(委員) 中途退学は0にしたいと思ってもなかなか0にはならない。ちょっと前に10人の多い年度がありますが、この要因には何があったか覚えていますか？

(学校) 少し前なのではっきりと覚えてはいませんが、中途退学の理由はほとんど今と変わっていないと思います。

(委員) 資料を見ると、委託生は辞める人がほとんどいないようです。委託生の受け入れに力を入れたらいかがでしょうか。

(学校) 本校は高校生を中心に募集をしていたので現在ハローワークへの訪問は行っていませんが、委託生の受け入れを続けていきたいと思えます。ただ、委託生は一時的な国の政策であって、永遠に続くものではないと考えています。保育士不足が解消されてくると、この制度もなくなってくると思われます。

(委員) 中学校では3デイズチャレンジというものがあり、ものすごく効果が高い。幼稚園や保育園に行った生徒は将来の進路に繋がりやすい。中途退学者のなかにも、気持ちが揺れている人がいたかもしれない。素晴らしいしごとなので、多角的な方面から早期に支えていくと良いと思う。

(学校) 本校に入学する同期の一つには、確かに中学校のなかでのチャレンジの経験から、保育士になりたいと考えたという回答も多いです。3デイズチャレンジをさらに有効に使ってほしいと思います。

(委員) 本日授業を2つ拝見させていただいたなかの2つ目の授業で、活発に授業をしているなかでも関心がないような学生もいますね。その辺りが、心のなかでは関心が違うところにいる前兆ではないかと感じました。

### (3) 今年度の進路状況の中間報告

(学校) 11月1日現在では昨年度とほぼ同数です。保育園、幼稚園の求人も多く変わるところはありません。昨年並みに進んでいるというのが今年度の状況です。

ドラッグストアの内定をいただいていた学生がいましたが、やはり保育園の方に進みたいとのことで辞退しました。

(委員) ドラッグストアに決めていた学生がまた保育に戻るといのは重要なポイントのような気がします。どのような理由だったのでしょうか。

(学校) 本人は実習に行ってあまりいい結果が得られなかったため、アルバイト先で試験を受けて内定を頂いていましたが、周りの友達の話や授業の影響で保育に気持ちが向いたようです。

(委員) やはり現場は楽しくなければ卒業まではいかないですね。実習が辛くて途中で来なくなるという学生もいるので。時間的なゆとりを作って実習をしてもらえればと感じています。子どもたちと遊んで先生たちと話して、時間にゆとりがあれば保育の現場を楽しめるのではないかと思います。

(学校) 学生によるところもありますが、楽しくてあっという間に終わってしまう学生もいれば、準備不足でゆとりのない学生もいる。家に帰ったら実習記録で電話がない、指導案があつて余裕がありません。コミュニケーションも苦手としています。

附属幼稚園に行ける機会が増やせればいいけれども、授業的には難しいです。今、2年生の後期の時間割は就職活動やボランティアにあてるという意味でゆとりがあるのですが、自分のために時間を使う学生が増えています。この時期をどう有効に使うかというのを検討中であり、次の就職を見据えた何か課題を解決するための時間にしたらよいのではないかという意見が学内からも出始めているところです。

(学校) 附属の施設が7カ所ありますので、学生と教職員も含めて連携を深めていきたいと考えています。紀要や研究論文に発展させられたらと考えていますので、折を見て園長の方にもお話していきたいと思えます。学生にも有効活用できるような方法を見つけていきたいです。



(4)合理的配慮が必要な学生への対応の取り組みについて

(学校) 本校へ入学した学生で、コミュニケーションが難しい学生やこだわりが強い学生など多様化しています。文部科学省の方では障害を持った学生の実習については配慮をしながら進めていきなさいということで指針が出ております。

今後、このような学生が増えてくるかもしれませんし、診断が出ない学生の方が多いかと思います。学校の教職員もどのように対応していくのか、評価と改善に向けた取り組みを模索中です。

(学校) 実習先に正直に状況を伝えて、協力できるところを配慮していくことが大事だと思います。実習先で評価がでなければ、次第に学生も向いていないと自覚したり、親がそう思ってきたりするところもあるかもしれませんが難しいところだと思います。

(委員) 教員側がそのような対応に追い付いていない。研究を積み重ねて多角的な見方ができるようになることが必要だと感じています。

(学校) 学校としても、出身高校あるいは家族の情報を頂きながら、本人の観察をしながら適切な対応をしていきたいと思っています。しかし、こういったことは家族が抑えてしまう場合があり、気づくのに時間がかかってしまう場合があります。早めに情報収集をして、的確に指導していきたいと思っています。

(委員) 大学でも配慮申請の窓口はありますが、本人及び家族が認めない限りは先に繋がられないというもどかしさがあります。資格を取ることになると、便宜を図って資格をとることにはならないということで難しさがあります。

(学校) ありがとうございます。今日ご審議頂いた点については、学校運営に反映させていただきます。募集状況、中途退学、合理的な配慮事項、就職などの諸課題については、また検討していきたいと思っています。本日の色々な貴重なご意見ありがとうございました。

- 5 閉会 ご協議誠にありがとうございました。協議でのご意見、ご提案、ご提言を今後の学校運営に生かします。